

第3回紫電改展示館整備検討委員会の開催結果

1 委員会の名称 紫電改展示館整備検討委員会

2 開催日時 令和5年11月8日（水曜日）午前10時30分から正午まで

3 開催場所 いよてつ会館4階会議室

4 出席者 委員5名、事務局7名、設計業者5名

5 審議事項（議事）

- (1) 新しい展示館の展示計画について
- (2) 今後の予定について
- (3) 意見交換

6 審議の内容

議事（1）新しい展示館の展示計画について

○事務局から「新しい展示館の展示方針」および「現展示館の展示品の状況」について説明した。

- ・新しい展示館の展示内容は、公園再編のコンセプトである「恒久平和の大切さを伝える公園」のコンセプトに合致したものとする。
- ・紫電改に直接関係のある展示内容とする。
- ・資料を2～3のグループに分け、季節毎に展示内容を交換することも検討する。
- ・現在の展示館に展示されている資料について、具体的な展示品の例を紹介。

○遠藤克彦建築研究所から展示計画の案について概要を説明した。

- ・展示方針に基づき、展示コンセプトと展示ストーリーを検討した。
- ・展示コンセプトとしては「引き揚げられた紫電改、伝える史実、考える未来」とし、この意図として、久良湾の風景の中で唯一無二の紫電改の実機と向き合い、その紫電改に刻まれた史実、まつわる人々の想いをめぐり、再び実機と向き合うことで平和について考えるきっかけとするストーリーを考えている。
- ・前回、説明したとおり、建物は一筆書きで全体を回れる動線計画としている。
- ・イントロダクションとして、スロープのスタート地点に、なぜ紫電改がここにあるのか等、施設の歴史的背景や現在に至る経緯をグラフィックスペースで紹介する予定。
- ・続いてスロープの壁面を利用して平和へのメッセージを設け、景色や紫電改を眺めながら気持ちを高める展示としたいと考えている。
- ・続いて、実機の展示スペースについて、海、空と共に実機をシンプルに見せることを考えている。来館者が紫電改について想いを巡らせることができる展示計画としたい。
- ・実機を見た後、紫電改の背面位置では、概要映像を用いて、ここで何があったのかなど、全体を映像でつかむことができる展示を計画している。
- ・続いて展示室では、紫電改にまつわるモノ・コトを知り理解を深める展示を計画としている。大きく3つの構成に分かれていて、1つは「機体としての紫電改を知る」ことを目的として技術解説や開発経緯を実物部品と共に展示する計画。
- ・続いて「史実を知る」。こちらは、引揚げ時の写真や、なぜ久良湾にあったか等の史実を紹介する展示を計画している。

- ・続いて「想いを知る」。こちらは紫のマフラーなど、紫電改にまつわる人々の想いなどに焦点をあてて展示する計画としている。
- ・展示室で紫電改について理解を深めた後、再び実機に向き合い、紫電改に思いを巡らせる流れとしている。
- ・最後に来館者に平和への想いを綴ってもらうことを計画している。整備コンセプトでもある恒久平和の大切さを考えるきっかけとなればと考えている。
- ・展望テラスでは、引揚げ箇所がわかるようにマップ等の設置を計画している。
- ・多目的室は、展示にも使用でき、また、集合場所など多目的な使用ができるスペースとして計画している。

議事（２）今後の予定について

- 事務局から今後の予定について以下のとおり説明した。
 - ・第４回の委員会は２月に実施する予定。
 - ・第４回では、愛媛県から具体的な建築計画、展示計画の案を説明し、委員から意見を伺う予定。
 - ・第５回目以降は、設計業務の進捗に合わせて実施する予定。

7 委員会での主な意見

- 展示資料は劣化するため、今後のことも考えてデジタル化も検討すべき。
- デジタルにすれば、多くの資料を表現できるのでは。
- 音楽があると没入感が得られやすい。
- 今回の案は、現代の子ども達にもイメージしやすいと感じた。
- 紫電改を中心とした展示計画となっていると感じた。
- 見に来る人だけでなく、様々な人が立ち止まれる場所にしたい。
- 景色にも注目してもらいたい。
- エビデンス（根拠）に基づいた展示とする必要がある。
- 第343海軍航空隊は有名で、それを目的に来館する人もいるため、展示内容の吟味が必要。
- 小中学生が展示を見て「昔のこと」「自分には関係ないこと」と思わないかが危惧される。自分と同年代の人が関わったエピソードがあると戦争が自分達にも身近なものと感じてもらえるのではないか。
- 実物が見られる、触れられる、感じられる、体感できる展示内容を検討してもらいたい。
- 紫電改に乗ってみたいという意見もあった。見学だけでは飽きられるため、レプリカでも良いので触れられるもの（体験できるもの）が欲しい。
- 入館料を有料にするならば、チケットの代わりにステッカーなどがもらえると、帰宅した後も、展示館が話題に上がるのではないか。
- 企画展があっても良い。
- 年表や地図など、流れがわかる資料があればよいと思う。
- 展示で対応できないものは、配布資料で代用する方法も検討してほしい。
- 実物資料を活かした展示としてほしい。
- 外国人の方の対応として音声ガイダンスやパンフレットでの対応が考えられる。
- 学芸員の配置についても検討すべき。
- 展示の将来計画を踏まえた設計とすべき。
- 展示をゆっくり見られるようにベンチなどを設置して座れるようにしてもらいたい。
- 多目的室の中に入れる人数と設置する設備はどのようなものか。
→30席程度。プロジェクタや音響設備を設置予定。講演会や企画展なども開催可能なスペースとして考えている。
- 別施設ではガラス越しに正面から機体の写真を撮ろうとすると反射して綺麗に写真が撮れ

ないといった事例がある。写真映えする構図で写真が撮られるように配慮できないか。
○サイクリストのため自転車置場なども検討して欲しい。

〔整備検討委員会事務局〕
土木部道路都市局
都市整備課公園緑地係
電話 089-912-2749
FAX 089-912-2744